

## 血中メキシレチン濃度測定が治療に有用であった 心室頻拍の犬の1例

山野茂樹<sup>1, 2)</sup> 田中克幸<sup>1)</sup> 西田 幹<sup>2)</sup> 藤原めぐみ<sup>2)</sup>  
原田佳代子<sup>2)</sup> 海老澤崇史<sup>2)</sup> 上地正実<sup>2)†</sup>

1) 愛知県 開業 (カニエ動物クリニック: 〒497-0050 海部郡蟹江町学戸4-164)

2) 日本大学生物資源学部内科学研究室 (〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866)

(2008年5月12日受付・2008年10月8日受理)

### 要 約

失神発作を呈する拡張型心筋症の7歳齢、避妊雌、ゴールデン・レトリバーに対し、メキシレチン (3mg/kg, q12h) による治療を行った。本投与方法で一年以上にわたり臨床徴候の改善が認められたが、心室頻拍と心室期外収縮による失神が再発したため、メキシレチンの血中濃度を測定したところ、有効血中濃度に達していなかった。そこで投与間隔を短縮 (3mg/kg, q8h) して有効血中濃度を維持すると、失神は認められなくなった。以上のことから、メキシレチン投与症例においては、臨床徴候に応じて血中メキシレチン濃度を測定し、その結果によって投薬量の調節を必要とすることが示唆された。——キーワード: 抗不整脈薬, 不整脈, 薬物動態。

----- 日獣会誌 62, 398~402 (2009)

† 連絡責任者: 上地正実 (日本大学生物資源学科学部獣医学科獣医内科学研究室)

〒252-8510 藤沢市亀井野1866 ☎・FAX0466-84-3482 E-mail: uechi.masami@nihon-u.ac.jp

日獣会誌 62 398~402 (2009)

—— 398 ——